発表番号　０７　　多度津町立多度津小学校

１　研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を支えるICTを活用した授業づくり
―「分かる」「できる」「もっと学びたい」を高める学習の創造を目指して―

２　研究の具体

通常学級に在籍する特別な支援を要する児童が多く、学力の二極化傾向も顕著な本校の実態から、令和４年度よりユニバーサルデザイン（以下UD）の視点を取り入れて、全ての児童が分かる・できる授業を目指してきた。今年度はICTを効果的に活用することで、「分かる・できる」にとどまらず「もっと学びたい」という気持ちを引き出すことをねらって取り組んでいる。

視点１　ICT活用の日常化による、UDの視点を取り入れた授業づくり

・焦点化
ねらいや活動を絞り込みシンプルに

全部見るのは難しいな。まずは服装を比べてみよう。

・視覚化
学習内容を見える形に

アンケートの結果がその場ですぐに分かるよ。

・共有化
対話し、思考過程を共有

○○さんは私と違うな。聞きにいこう。

視点２　児童の情報活用能力の向上育成

・情報活用能力のカリキュラム・マネジメント
・操作スキルの向上
・情報モラル教育とデジタル・シティズンシップ教育

低→操作スキルの向上
高→まとめ方、表現方法を選べるように

視点３　ICTを活用した教員研修

放課後の短い時間を活用したICTミニ研修

模擬授業でICTの利便性を検討

代表委員会を生かした取り組み

学級でタブレットの使い方について話し合い、全校生でルールを共有。

タブレットの持ち帰り

４～６年は毎日持ち帰り、AI型ドリルや、調べ活動などに活用。

３　研究の検証及び改善の手立て

○　ICTを活用することで、書くこと以外にも音声での入力、写真や動画での記録など、表現方法を選択できるようになった。その結果、これまで何もできずに困っていた児童が自分の思いを伝えたり、皆と同じペースで授業に参加したりする場面が増えた。

○　画面共有を行うことで、自分の意見をもちにくい児童が他の児童の意見を参考にすることができたり、友達の考えのよさを取り入れてよりよくまとめようとしたりする姿が多く見られるようになった。

○　ミニ研修は教員が負担に感じにくく、情報活用能力の向上とICTのよさに気付くことにつながった。

●　アンケートの結果、教員（ICTを活用した授業　週３回以上の割合21%→78%）も児童（意見交換時のタブレットの使用　週３回以上の割合25%→68%、意見をまとめる時のタブレットの使用　週３回以上の割合16%→66%）もICTを使用する頻度は上がったが、学習の理解度に肯定的な回答をした児童は81%→85%とあまり変化がなかった。一律にICTを使用するのではなく、児童の必要感に応じて児童がICTの使用を選択できるようにするとともに、「もっと学びたい」と感じる魅力的な授業づくりが大切になってくると感じた。